

稲作管理情報 第5号

1. 移植コシヒカリの生育状況（6/14現在）

草丈、葉令、葉色は平年並みですが、茎数は昨年や平年を上回っております。中干しに入っていないほ場は、早急に中干しを行いましょう。

	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉令(L)	葉色
H28	36.3	469	8.9	4.2
H27	37.2	396	9.1	4.3
平年値	33.3	330	8.3	4.3

注) 数値は、メルヘン展示圃の平均値。平年値は平成18~27年の平均値。

2. てんたかくの穂肥の施用

1)分施肥体系の場合

- 穂肥は必ず幼穂長2mmを確認して、メルヘン3号を施用しましょう。(下表参照)

<施用時期の目安: 5月上旬植えの予測>

<施用量:kg/10a>

1回目 (幼穂長2mmの時期)	2回目 (1回目の10日後)	土壤区分	1回目	2回目
6/23~24頃	7/3~4頃	沖積田	10	10~13
		洪積田		

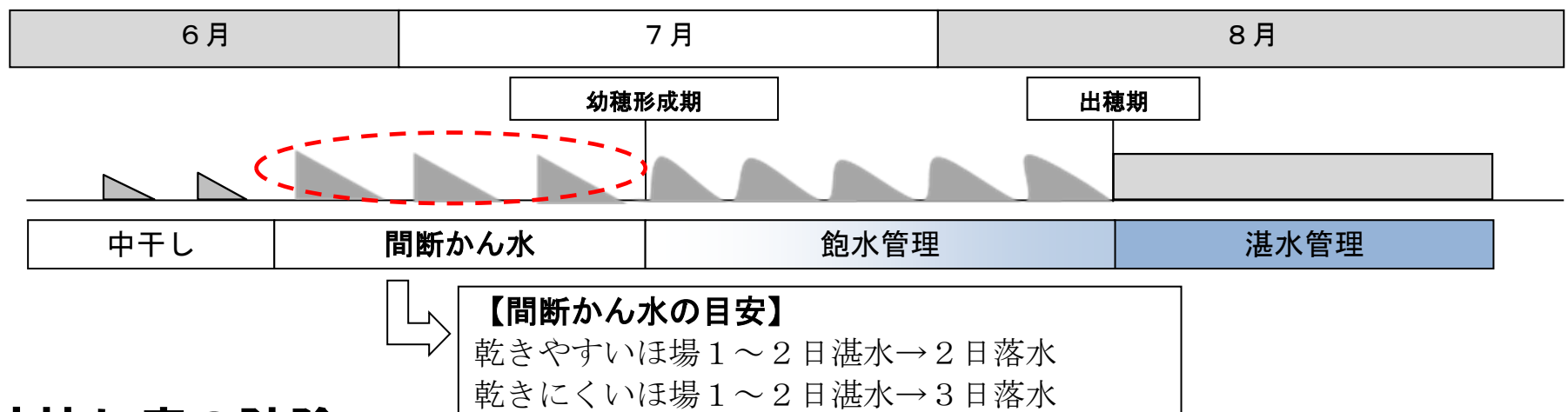
※ 緑肥跡等での作付で生育が旺盛な場合は、事前に営農指導員や普及指導員にご相談ください。

2)基肥一発肥料体系の場合

- 原則、追肥の必要はありません。ただし、6月下旬頃に葉色が4.0を下回りそうな場合は、直ちにメルヘン3号で7kg/10a(N成分:1kg/10a)程度の追肥を行いましょう。

3. 中干し後~幼穂形成期までの水管理

- 中干し後から幼穂形成期までは「間断かん水」を行い、水と酸素を十分に供給しましょう



4. 紋枯れ病の防除

- 昨年紋枯病が多発した直播ほ場や、出穂前に病斑が確認されたほ場では、次のいずれかの薬剤で防除を行いましょう。

薬剤名	散布量	散布時期
モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a	てんたかく: 出穂14日前頃
モンカットファイン粉剤20DL	3~4kg/10a	コシヒカリ: 出穂10日前頃
モンカットフロアブル	1000倍に希釈して150リットル	てんこもり: 出穂7日前頃
モンカット粒剤	3~4kg/10a	

## 5. 斑点米を防止するための草刈り・大麦跡の管理および適正な防除の実施

- 今年、斑点米カメムシ類の数が多く、早生品種を中心に斑点米の発生が懸念されています。斑点米カメムシ類の発生を抑えるため、以下の対策を行きましょう。

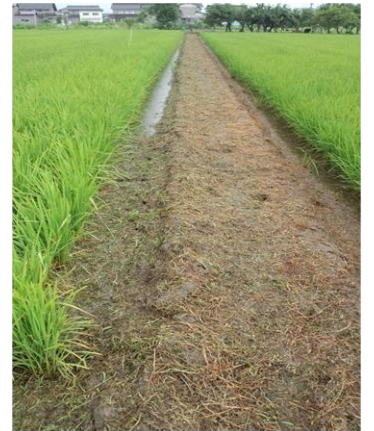
### 対策1:カメムシが発生しにくい環境づくり

- 1) 水田畦畔や周辺雑草地の草刈りを実施しましょう。刈り取った草は用水に流さないようにしましょう。

畦畔の一斉草刈りで、カメムシを発生させない。

**草刈運動期間** 7月1日(金)～10日(日)  
**県下一斉草刈日** 7月2日(土)～3日(日)

- 2) 大麦収穫後のほ場は放置せず、大豆、キャベツ、クローラリア等の作物を栽培して有効に活用しましょう。なお、大麦収穫後からキャベツ等の栽培開始までに日数を要する場合は、雑草が繁茂しないように管理してください。



### 対策2:てんたかく圃場の適期・適正な防除の実施

- 1) 穂揃期(1回目)と傾穂期(2回目)の2回防除を行きましょう。(下表、下図参照)
- 2) 粉剤や液剤は穂や畦畔にもしっかりとかかるようにしましょう。

#### <防除時期>

	7月18～19日頃(穂揃期:1回目)	7月25～26日頃(傾穂期:2回目)
[粉剤]	[キラップ粉剤DL] 4kg/10アール	[スタークル粉剤DL] 3kg/10アール
<<液剤>>	<<キラップフロアブル>> 75ml/10アール(2000倍)	<<スタークル液剤>> 150ml/10アール(1000倍)

<出穂直前><出穂>

<穂揃期> ←約7日間→ <傾穂期>

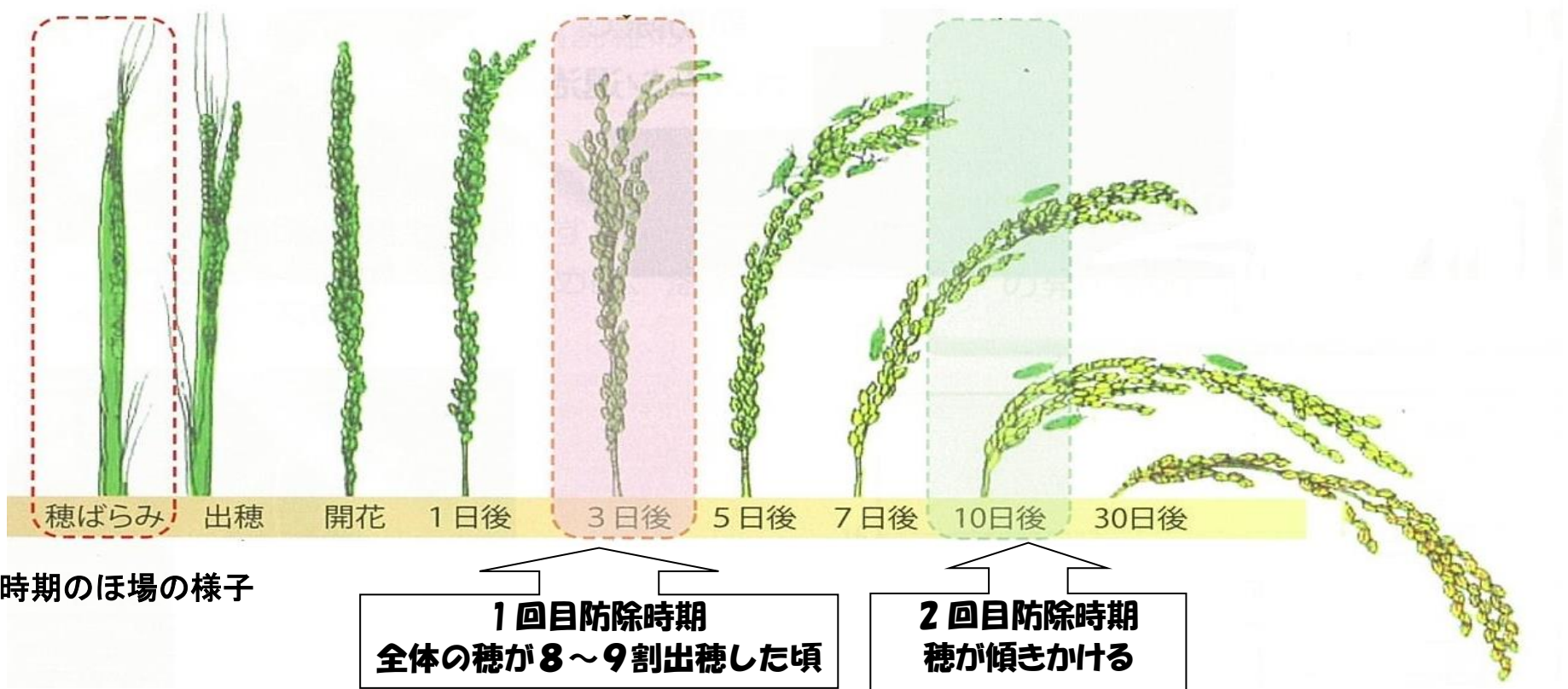


図 防除時期のほ場の様子

## 6. クサネムの防除 ～クサネム種子の混入に注意しましょう～

- クサネムは刈取りの邪魔になる上、種子が出荷製品に混入すると異物混入としてクレームの対象となります。良質米産地としての信頼を得るために、混入防止に努めましょう。

- クサネムの種子は色彩選別機でも全て除去するのは困難なため、収穫前に抜き取ってください。
- 後期除草剤の散布は収穫前日等の散布時期がありますので、薬剤ラベルを確認の上、適切に散布して下さい！

